

# 図書館情報学橋会会報 第15号(通号21号)

2013年10月発行 発行者 社団法人若溪会支部図書館情報学橋会

## 日本図書館協会で活躍している同窓生たち

図書館情報学橋会会長 森 茜

### 世界で3番目の図書館員専門団体

今年の春、私は、思いがけず、社団法人日本図書館協会の理事長に就任した。“日本図書館協会”と言えば、日図協の愛称で親しまれ、橋会の会員であれば、その名を知らない人はないと言っても過言ではないほど、我が国の図書館界にとって中核というべき団体である。創設は1892年(明治25年)、「日本文庫協会」が創始というから今年で121年目の歴史を持つ。世界で3番目に結成された図書館員の連携組織である。1906年には全国図書館大会を開催し、翌年には「図書館雑誌」(月刊)を創刊し、その翌年に「日本図書館協会」に名称変更した。日図協の長い歴史の中では、多くの同窓生が活躍してきたが、今回は、今、私と一緒に日図協の活動を支えている人たちを紹介しよう。

### 同窓生が支える日図協

現在の日図協には理事会・評議員会の他に6つの部会と22の委員会があるが、ここでは、執行機関である理事会の仲間を紹介する。

理事会は30名で構成されており、そのうちの14名が常務理事として常設的に常務理事会を開催し執行責任を負う立場である。この14名中なんと6名が橋会の同窓生なのだ。その責任は重い。

一番の古参は、私、森 茜で1965年図短別科の1期生だ。複数の大学図書館の現場経験を持ち、行政の経験及び民間団体の経験も持つ。

次の古参は、西村彩枝子さんで、創設直後の1969年図書館短大第2期生だ。当時としては、

数少ない女性の図書館館管理職経験者だ。江戸川区に住みながら江東区立図書館館長相当職を経験し、日図協の中で公共図書館界の動向に精通する理事として貴重な存在として活躍している。また、東日本震災支援委員会委員長として、震災地へのボランティア活動に率先して参加し、図書館活動の新たな境地を切り開いている。

1976年図書館短大別科からは2名が参加している。大場高志さんと鈴木良雄さんだ。大場高志さんは、国立情報学研究所や高エネルギー研究所国際交流課長の経験もあるが、長く国立大学図書館で仕事をしてきた。国立大学図書館の合理的で組織化された運営方法が身につけており、日図協執行部に斬新な風をもたらしている。鈴木良雄さんは、現在、専門図書館協議会の事務局長をしている。神奈川県立図書館での仕事の経験を生かし、目下、多様な性格を持つ専門図書館を、全国的な組織としてまとめることに邁進している。

一つ年下の1977年図書館短大別科卒の谷口豊さんも大学図書館畑だ。現在、日本体育大学図書館で仕事をし、私立大学図書館の経験から、柔軟で経営感覚に富んだ視点から執行部を支えている。何よりも、彼の特徴は、長年、「図書館雑誌」の編集長をしていることから得る知見に基づいて、実にシャープな目で図書館界を総攬し、鳥瞰的な観点から執行部を支えていることだろう。

さて、一番の若手は、1985年図書館情報大学第2期生の小池信彦さんだ。彼は若手ながら東京の調布市立図書館の館長をしている。公共図

書館の今を代表する立場から日図協の活動・運営に貢献している。日図協は、今、このような若い人たちの感性をもっとも必要としている。

そして、忘れてならないのが、監事の**酒井 信さん**だ。彼は、愛知県日進市に居住しているた

めなかなか直接的に会う機会は少ないが。私立の名城大学の図書館と大学本部で鍛えられた感性で、いつも冷静で視野の広いバランス感覚に富んだ指摘を行い、困難な問題に取り組んでいる現在の日図協の大事な監査役を果たしている。



## 桜井先生を偲ぶ

図書館情報大学名誉教授 佐藤 隆司

杉並の病院に桜井先生をお見舞いに行ったのは、10年ほど前だっただろうか。身体が不自由になったことを辛がっておられたように見え、まだ元気だった私を「佐藤君はいいな」と、つぶやくようにいわれたたことを思い出す。傍らに聖書が置かれていたこともはっきりとおぼえている。

先生は軍人であった。陸軍士官学校という当時の若者の進む道としては最高級の学校に入られたのだが、先生に云わせると、陸軍士官学校は海軍士官学校よりは下で、「僕は二流の人生を送っている」と云われたことがあったが、そのことと、その後東大ではなく東工大に進まれたことを、そのように云われたようだった。しかし、エリートであったことは間違いない。エリートなどという言葉を先生は嫌われていたようだが。

軍人であったにもかかわらず、敗戦という事態に遭遇して、大きな心の葛藤があったに違いないと思う。その後のキリスト教徒への道のりについて、詳しく聞いたことはなかったと思うが、私は、真面目一方の先生のご性格から想像して、それはそうなのだろうと勝手に思っている。キリスト教作家の三浦綾子を訪ねたり、茨城のキリスト教学園の手伝いにいたりしたことがあったと聞いていたが、先生も心の旅をされていたのではなかろうか。

先生と松田智雄先生とは、教会が近いということもあって、心を通わすことが多かったのではなかろうか。何だったか忘れてしまったが、何か書類を自宅の方まで取りに来いと松田先生にいわれて、桜井先生と一緒にうかがったこともあった。そんな際にも、先生と松田先生とが、心が近いように見えた。

私の生まれ育った中野区大和町と、先生のおられた練馬区中村や中野区鷺宮は近いこともあって、その面からの交流が出来たことも、私には幸いであった。

先生の奥さまは、お茶の水女子大出身の方で、心理カウンセラーの仕事をされていた。晩年にはご自宅の方に「先生御在宅ですか」という電話の多くが奥さまあてのほうなのだと、苦笑気味に話されたことがあった。私の娘の教育相談を奥さまにお願いしたこともあった。

私は馬齢を重ねるだけであるが、この10年ほどは、ナチ時代のドイツ図書館人・出版人の生きざまといったテーマにはまりこんでいる。その関連文献を見ていると、いやでも当時のドイツの教会の姿が目に入ってくる。日本では知られていないと思われるようなことも見えてくるのだが、そういったことを先生と話し合ってみたかったと、つくづく残念に思う。



## ◇平成 25 年度の知識情報・図書館学類の状況◇

筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類長 長谷川 秀彦

### 1) 在籍者数

H25. 5. 1 現在

区 分	人 数	男女比
1 年	106	49 : 51
2 年	97	43 : 57
3 年	114	46 : 54
4 年	149	42 : 58
図書館情報専門学群	1	100 : 0
合計	466+1	45 : 55

※定員 100 名+3 年次編入 10 名

### 2) 主専攻別人数 (3 年次に主専攻に配属)

主 専 攻	教員	3 年	4 年
知識科学	12	40	26
知識情報システム	15	21	42
情報経営・図書館	18	54	55

### 3) 進路状況

H25. 3. 1 現在

進 路	H23	H24
企業	36 (37. 9)	41 (40. 6)
図書館・公務員	21 (22. 1)	16 (15. 8)
大学院進学	19 (20. 0)	23 (22. 8)
研究生	1 (1. 1)	2 (2. 0)
就活中	16 (16. 8)	6 (5. 9)
公務員試験等受験予定	0 (0. 0)	9 (8. 9)
フリーター	2 (2. 1)	4 (4. 0)
合計	95 (100)	101 (100)

※カッコ内は倍率 (進路決定者数/定員)

### 4) 国際インターンシップ

留 学 先	H24	H25
上海図書館	5	0
トロント日本文化センター	1	1
ハワイ大学	0	2
釜山大学	6	1
ブリティッシュコロンビア大学	1	0
合計	13	4

### 5) 入試志願者数

区分	定員	H23	H24	H25
AC	5	17 (3. 4)	12 (2. 4)	24 (4. 8)
推薦	20	39 (2. 0)	37 (1. 9)	35 (1. 8)
前期	60	186 (3. 1)	160 (2. 7)	165 (2. 8)
後期	15	137 (9. 1)	108 (7. 2)	88 (5. 9)
全体	100	383 (3. 8)	320 (3. 2)	313 (3. 1)
編入	10	62 (6. 2)	55 (5. 5)	34 (3. 4)

※カッコ内は倍率 (志願者数/定員)

### 6) 異動

#### ○新任 2013. 4. 1

水嶋 英治	教授	
高久 雅生	准教授	
毛利 るみこ	准教授	(寄附講座)
三森 弘	助教	
寺澤 洋子	助教	(情報メディア創成)
林 勇吾	特任助教	(情報メディア創成)

#### ○退職 2013. 3. 31

植松 貞夫	教授	
菓袋 秀樹	教授	
田中 和世	教授	(情報メディア創成)
市川 恵理	准教授	(寄附講座)

## 第 10 回総会の記録

〈日時〉平成 25 年 7 月 20 日 (土)

〈会場〉茗溪会館 5 階会議室

〈出席者〉理事・監事を含め、約 20 名

### 〈総会議事〉

#### (1) 開会挨拶 (森茜会長)

#### (2) 来賓紹介

- ・中山伸一 (筑波大学教授・附属図書館長)
- ・植松貞夫 (筑波大学名誉教授、跡見学園女子大学教授)
- ・堀内昭三 (一般社団法人茗溪会理事)

#### 中山伸一教授より挨拶

- ・平成 25 年度から学期区分が 2 学期 6 モジュールへ移行
- ・海外研修生の派遣・受け入れの積極的な推進
- ・学類・研究科の入学志願者数と卒業生進路動向
- ・教員の退官・転任・着任

#### 堀内昭三理事より挨拶

- ・茗溪会の会員増・収入増・経費削減の運動
- ・卒業生の入会金廃止、卒業・修了後 3 年間の会費納入猶予などの改革
- ・創立 40 周年の大学と連携しての卒業生の組織強化

#### (3) 議長選出

会則第 19 条により森会長が議長に選出された。

#### (4) 議事 (以下の議案について、いずれも異議なく了承された。)

### 1) 平成 24 年度事業報告及び決算報告

#### 1. 会員現勢 (平成 24 年度末現在)

会員 1675 名、平成 24 年度中の入会 0 名、学生会員からの移行 17 名、退会 17 名、逝去 1 名 (卒年・卒科別会員状況を別表で提示)

#### 2. 事業報告

- (1) 筑波大学平成 24 年度卒業式に森会長が出席
- (2) 第 9 回総会の開催
- (3) 会報第 13 号 (平成 24 年 9 月)・第 14 号 (平成 25 年 3 月) の発行
- (4) 大学統合 10 周年記念公開シンポジウム開催  
「一絆一図書館と震災を語り継ぐ」  
(筑波大学図書館情報メディア系、同 図書館情

報メディア研究科、同 知識情報・図書館学類との共催、日本図書館協会との協力による事業)

- (5) 全卒業生の交流会 第 4 回「大橋会」開催
- (6) 茗溪会本部行事の総会への参加
- (7) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」活動

### 3. 決算報告… (別項の通り)

### 2) 第 5 期役員の追加選出

- (1) 第 5 期役員のうち、筑波大学との連絡・調整担当理事の転任にともない、筑波大学附属図書館勤務の加藤信哉氏を理事に追加選出
- (2) 理事の所属先の一部変更を説明

### 3) 平成 24 年度事業計画案及び予算案

#### 1. 事業計画

- (1) 会員の一層の拡充
- (2) 会報の発行
- (3) 全卒業生交流会「大橋会」(第 5 回)の開催
- (4) 公開イベントの開催
- (5) 筑波大学校友会及び同窓生各グループ活動との連携
- (6) その他

#### 2. 予算案… (別項の通り)

筑波大学支援図書館情報学振興基金 (特別会計) は、例年通りの支出であれば平成 25 年度に残金が無くなる見込みであったが、筑波大学図書館情報学海外研修費は昨年度の助成残金と大学からの支出で賄うため、平成 25 年度の特別会計からの研修助成支出は無くなること補足説明された。

### 4) 大橋会・公開イベントについて (報告)

これまで大橋会・公開イベントは筑波大学のホームカミングデーの日程に合わせて実施してきた。平成 25 年度のホームカミングデーは、昨年度までの 10 月上旬より 1 カ月後の 11 月 3 日 (日) の予定。公開イベントの内容は今後の理事会で検討していく。

(橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和 59])

◇平成 24 年度決算報告◇

収入の部		支出の部	
前年度繰越	7,798,158 円	支出	2,065,770 円
収入	1,911,856 円	次年度繰越	7,644,244 円
合計	9,710,014 円	合計	9,710,014 円

一般会計 内訳

収入の部

項目	決算額
前年度繰越	7,798,158 円
会費	916,500 円
入会金	0 円
維持費	600,000 円
寄付金	185,888 円
補助収入	200,000 円
雑収入	9,468 円
小計	1,911,856 円
収入合計	9,710,014 円

支出の部

項目	決算額
広報費	16,640 円
印刷製本費	460,878 円
通信費	487,813 円
貸借費	60,585 円
大学支援金	0 円
茗溪会本部会費支払い	828,450 円
諸謝金	133,000 円
慶弔費	15,000 円
消耗品費	7,973 円
諸経費	55,431 円
支出合計	2,065,770 円
予備費	0 円
次年度繰越	7,644,244 円
合計	9,710,014 円

特別会計（筑波大学支援図書館情報学振興基金）  
内訳

収入の部

項目	決算額
前年度繰越	1,356,362 円
利子	153 円
小計	153 円
収入合計	1,356,515 円

支出の部

項目	決算額
大学支援金	760,862 円
諸経費	420 円
支出合計	761,282 円
次年度繰越	595,233 円
総計	1,356,515 円

注: 支出の部「大学支援金」の内容は下記のとおり

- ・平成 24 年度図書館情報学海外研修助成支援
- ・平成 24 年度図書館実習連絡費寄附
- ・平成 24 年度卒業式祝賀会支援



◇平成 25 年度予算 一般会計◇

収入の部

項目	予算額
前年度繰越金	7,644,244 円
年会費	1,050,000 円
維持費	580,000 円
寄附金	120,000 円
補助金等収入	160,000 円
雑収入	20,000 円
収入小計	1,930,000 円
合計	9,574,244 円

支出の部

項目	予算額
広報費	20,000 円
印刷製本費	400,000 円
通信費	400,000 円
賃借料	30,000 円
大学支援金	100,000 円
茗溪会本部会費支払い	945,000 円
諸謝金	100,000 円
慶弔費	50,000 円
消耗品費	10,000 円
諸経費	30,000 円
支出小計	2,085,000 円
予備費	7,489,244 円
合計	9,574,244 円

注：特別会計は大学側からの要望により支出するため、予算はありません。

※※※

平成 24 年度活動報告

(1) 筑波大学行事への参加

平成 24 年度の卒業式（3 月 25 日）に森会長が出席した。

(2) 第 9 回総会の開催

茗溪会支部「図書館情報学橋会」としての第 9 回総会を平成 24 年 7 月 21 日（土）に開催した。

(3) 会報の発行

・「図書館情報学橋会会報」第 13 号（通号 19 号）を平成 24 年 9 月に発行した。

・「図書館情報学橋会会報」第 14 号（通号 20 号）を平成 25 年 3 月に発行した。

(4) 大学統合 10 周年記念公開シンポジウムの開催

平成 24 年 10 月 7 日（日）、筑波大学と図書館情報大学の統合 10 周年を記念し、筑波大学東京キャンパス校舎において、公開シンポジウム「絆 - 図書館と震災を語り継ぐ」を開催した。

筑波大学図書館情報メディア系、同図書館情報メディア研究科、同知識情報・図書館学類との共催、また、(社)日本図書館協会の協力による事業で、内容は以下の通り。

1) 基調講演 西村彩枝子(日本図書館協会)「図書

館 被災状況とその役割

2) ショートスピーチ(卒業生・在校生 8 名)

3) パネル討議（モデレーター：中山伸一 筑波大学附属図書館長、橋会顧問）

4) 図書館被災状況の写真・パネル展示（資料提供：日本図書館協会）

(5) 全卒業生交流会「大橋会(だいたちばなかい)」(第 4 回) の開催

全卒業生が集い友好を深める場として、公開シンポジウム終了後、幅広い世代の卒業生・在校生が参加して懇親会を開催した。

(6) 茗溪会本部行事参加

平成 24 年 5 月 24 日（木）の一般社団法人茗溪会の第 1 回（平成 24 年度）定時総会に、代議員として森会長が出席した。

(7) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動

筑波大学図書館情報学海外研修助成、図書館情報学実習補助、卒業式祝賀会への支援を行った。

以上

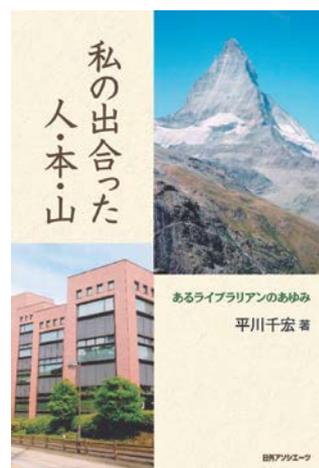
## ☆会員の活動拝見☆

### 平川千宏著『私が出合った人・本・山』

国立国会図書館に勤務された平川千宏さん（養成所昭33年卒）が『私が出合った人・本・山—あるライブラリアンのあゆみ』を出版した。著者がこれまでに発表した文章のほか、新たに執筆したものをあわせて1冊にまとめられている。「図書館職員養成所の二年間」に始まる図書館員としてのあゆみ、図全協などの活動、新聞切抜き・書誌作成、市民運動・住民運動資料と図書館、人権・憲法などについて、羽仁五郎・日高六郎ほかの人物への思い、ことばや詩について、山の思い出の全8章からなる。

一人のライブラリアンの視点で綴られた本書は、著者や同時代に生きた方々の空気が伝わる記録となっている。大学の記念誌などの公式資料と対になる個人の記録、先輩の半生のドキュメントに接する思いで拝読した。私個人に強く響いたのは“書かれないで大事なことが沢山ある”と説く「読むこと 書くこと 話すこと」の一文。情報・データという表面の断片を追う現代人（特に私）への戒めとしたい。

著作・編集リスト、年譜、人名索引付き。300ページ、本体2000円、ISBN978-4-8169-2434-7（書店で注文可）。問合せは発行元の日外アソシエーツ（03-3763-5241）まで。



### 能勢仁写真展「アジアの古本屋さん見て歩き」

毎年10月末に行われる「神田古本まつり」で昨年、書店コンサルタントの能勢仁さん（養成所昭28年卒）の写真展が開催され、最終日11月3日の午後に拝見した。

能勢さんは世界50か国近く、200以上の書店を訪問され、著書『世界の古本屋さん見て歩き』（出版メディアパル、2011刊、ISBN978-4-902251-97-5）に見聞がまとめられている。写真展では、この本の後半にあたるアジア・オセアニア地域の書店の写真が展示されていた。

著書で拝見した写真とはスケールがちがう。大判のカラー写真から伝わる各国書店の活気・空気に圧倒される思いだった。とくに、古本屋密度世界一のインド、ナイー・サラク古書街、背より高く本を積み上げたムンバイの露天、対照的に北朝鮮・ピョンヤンの国営書店の息苦しいような時間・空間が印象に残った。香港・九龍の尚書房での完璧な商品管理ぶりを指摘するコメントには、書店コンサルタントの視点が光っていた。

会場は東京古書会館の2階、地下では稀観書の即売会が開催され、靖国通り・すずらん通りでは青空掘り出し市。本の世界の広さ・奥深さを実感する一時だった。

（橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和59]）

### 平成 25 年度分会費納入のお願い

今年度会費未納入の会員におかれましては、以下の郵便振替口座または銀行口座宛に納入くださるようお願いいたします。なお、通常会員の会費は 3,500 円です。また通常会費完納者(35 回分納入済みの方)には、橋会円滑な運営のため橋会固有の協力会費 2,000 円を維持費としてお願いしています。

#### (郵便振替)

口座番号 00110-5-656101

加入者名 図書館情報学橋会

#### (銀行振込)

ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキユウ店)

口座番号 0656101 預金種目 当座

口座名義 トシヨカンジヨウホウガクタチバナカイ

\* 「振込依頼人名」欄に会員番号の入力をお願いします。

### ◇会員現勢◇

#### 1. 会員数

1,703 名 (平成 24 年 7 月 20 日現在)

#### 2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	60
国図附養	1
文図養成所	78
文図養成 A	161
文図養成 B	60
文図養成 1 B	3
文図養成 2 B	10
図短付養成	20
図短特養課	123
図短図書館	313
図短文献情	78
図大図情専	11

図大図情	533
図大図情修	18
図大博前期	11
図大博後期	1
筑図	144
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
筑博図情前期	4
筑知図	67
合 計	1,703

3. 新入会員は平成 24 年の卒業生から入会金を廃止。  
会費は 3 年間免除。平成 25 年度の学生会員からの移行者数 28 名。

#### 4. 逝去

(HP 掲載では省略)

5. 退会表明者 13 名

### 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

〒305-8550 つくば市春日 1-2 E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行: 2013 年 10 月 1 日